

7月12日、学部3年生を対象に恒例の「OB・OGと語る会」が開催されました。今年は古垣裕紀様（2002年物質工学科卒、(株)日立ハイテクノロジーズ 情報システム本部）と畠沢翔太様（2014年工学府博士課程前期修了、コニカミノルタ(株)機能材料事業本部）のお二方に講演をしていただきました。講演後はお二方を囲んで、懇親会が行われ、その席上でも熱心に話し合う姿が見られました。

以下にお二方のご講演の内容と学生たちの感想のアンケート結果を掲載させていただきます。

本会の参加者からは大変良い機会を提供いただいたと非常に好評で、今後も継続開催の要望が寄せられました。
(会誌グループ 米山)

育児しながら働くことについて

古垣裕紀（平成14年物質工学科卒）

こんにちは、山崎です。今日実はすごくアウェー感を感じておりました、まず学生さんがみなさんあたりまえなんですけどすごく若くて、ちなみに私は今のご退任されました化学系の横山先生の研究室を2002年に卒業しました。2002年と言えば日本韓国のワールドカップが開催された年で、今日会場にいるみなさんが小学生になるかならないくらいですかね、しかも今日一緒に講演される方が3年前に研究室を出られた若い男性ということで、今日こちらの講演に参加するために会社の上司に有給休暇を取得しますと報告しにいったときも、上司からは私で本当にいいのか、ですとか、学生さんにはもっと若い人が講演したほうがいいのでは、とかかなり色々いわれました。ちなみに2002年卒業、でだいたいはおわかりになると思いますが現在38歳、小学校3年と1年の男の子のママです。

それで、なんで今日ここに伺ったかと言いますと、学生時代かなり私不真面目な学生でして、まともに研究室で研究をせずに研究室を抜け出してアルバイトに行ったり、アルバイトで貯めたお金でタイヤインドを1カ月程度、バックパック1つ背負って旅をしたりしていました。クラブでオールした後、ミニスカートで研究室に実験に行ったこともありました。今回こちらの講義を恩師の横山先生経由でご依頼いただいたのですが、うしろめたい気持ち、学生時代



は本当に先生に申し訳なかったなという思いが強く、こんな私の経験、会社に就職して、結婚して、子供を産んで、仕事をしながら働いているのですが、そんな経験がお役に立てるのであれば、お話をさせて頂きたいなと思いました。

簡単に私の略歴ですが、先程、關先生からご案内頂いている通りです。現在は株式会社日立ハイテクノロジーズに勤めております。

日立ハイテクノロジーズは名前からおわかりになりますように、日立製作所のグループ会社です。「科学・医用システム」「電子デバイスシステム」「産業システム」「先端産業部材」の4つのセグメントで、グローバルな事業展開を行っています。以前、正確には二人目を出産する前に所属していた部署が「科学・医用システム」です。電子顕微鏡や科学分析装置を取り扱っております。

国内営業時代はHPLC、クロマトグラフィーという分析装置の営業担当をしておりまして、川崎の味の素研究所さんや小田原のカネボウさん、富士写真フイルムさん、横浜臨海コンビナートの工業地帯に営業に行っていました。

海外営業時代は、直接ユーザーさんのところに行く機会が各段に減りまして、各国の販売代理店のマネージャーとマーケティングプラン、販売キャンペーンの計画ですとか、その地域でヒットする仕様に製品の仕様を改善してもらえよう、工場と調整する仕事が多かったです。海外出張も多く、月に1週間程度は海外、国内の工場が茨城の水戸にあるのですが、水戸に日帰り出張なんかも頻繁に行っていました。横浜からですと片道3時間かかります。

そのころは入社して3年目を過ぎて、確か26～28歳前後だったと思います。まだまだ経験は少ないけれど体力はあるし、私自身も海外で男性女性に関わらず魅力的なマネージャーとお仕事をする機会がたくさんあって、すごくキャリア志向が強かったと思います。

そんなタイミングで機会に恵まれて結婚したのですが、やっぱり海外出張や国内でも時差のある国と仕事をしていると、早朝はアメリカ、日中はオーストラリア、夕方からドイツ、みたいな感じて自分自身が24時間営業みたいになって、やっぱり普通の人だと身体がおかしくなってくるんですね。慢性的な肩こり、腰痛、めまい、吐き気、倦怠感があつたりして、そのときにふと、私子供産めるんだらうか、と不安になりまして、このまま仕事をガシガシ続けて海外駐在の選択肢もあったのですが、29歳の時に一人目の子供を産みました。

私あまり子供が好きな方ではなかったのですが、赤ちゃんかわいいですよ。子供が産まれてから、小さい子供を見るとかわいいなあと思うようになりました。

さて、その後の産休育休ですが、みなさんご存知の通り、労働基準法に記載の通り、出産予定日から産前は6週間（多胎妊娠の場合は14週間）、産後は8週間の休業期間のことをいいます。育児休暇の取れる期間は、子供が生まれた日から1年間です。正確には出産から子供が満1歳になる誕生日の前日までの1年間となります。法改正により、一定の場合には、子が1歳6か月に達するまで育児休業ができ

るようになりました。もちろん旦那さんも育児休暇を取得できますので、例えばママ半年、パパ半年のように育休を取得することも可能です。

ちなみに日立ハイテクノロジーズでは、産休は労働基準法とかわりませんが、育児休暇は子供が1年生まで最大3年間取得できます。子供が1歳で復帰するママが多いですが、中にはご自身の体調不良やお子さんの病気の治療のため、再度残りの育休取得する方もいます。例えば、1年間の育児休暇の後に復職、お子さんが5歳のときに再度2年間育児休暇をとる、みたいな使い方ですね。

今日のテーマは「育児をしながら働くことについて」ですが、子供を産むと、働いている、いないに関わらず今までの生活が一変します。メディアにもよく出ていますが、睡眠不足による慢性疲労感や、身体の変化、例えば髪が抜けやすくなったり、虫歯になりやすくなったりもします。大変なことも多いですが、それでも育児休暇からの復職は「前職のキャリア」を少しでも継続して、とは思っていました。

幸い同じ部署に復職できて優しい方が多かったので、短時間勤務制度を利用して、6時間勤務から徐々に様子を見ながら海外営業の現場に・・・とは思っていたのですが、子供がすぐ熱を出す、手足口病、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ等々、数えきれないくらい色々な病気で保育園から呼び出しがあり、夫も会社を休めない、また、私も夫の両親も家が遠く、さらに私自身が子供の風邪をもらって体調を崩すことも多かったです。1ヶ月のうち3週間休む月もありました。

当時の反省ですが、もっと上手に周りの人に頼ればよかったなと思います。夫や両親、義理の両親等の身内を頼れないのであれば、無理に自分で抱え込もうとせず、素直に周りの人に助けて下さい、と言えたらもっと仕事家事育児の両立が楽にできたかなと思います。

現在は、以前に比べて育児支援サービスや家事支援サービスがすごく充実しています。ちなみに今利用しているサービスが「AsMamaの子育てシェア」と「キッズラインのシッティングサービス」です。学生さんの場合も、所定の研修期間を修了すれば、子育てサポーターとして登録することもできます。両サービス共に、サポーターさん募集中ですので、

子供が大好きでご興味のある方はチャレンジしてみたいかでしょうか。ユーザーさんには共働き家庭も多いので、育児をしながら働くことを身近に感じることができるチャンスだと思います。

とにかく大変なことが多いですが、子供産んで、そして仕事を続けてきてよかったと思います。

すみません、ちょっと私から一方的にしゃべりすぎてしまったかもしれません。女性の割合が半分とのことですので、せっかくのですのでご質問があればぜひお聞かせ願いたいと思います。先程のお話の内容でもかまいませんし、知りたいこと、でも何でも結構です。

特に質問が無かったので、弊社で実施している働き方改革、ダイバーシティ推進の取り組みをご紹介します。ダイバーシティとは多様性という意味です。男女の性別や障害の有無、人種や国籍、言語に関わらず、多様な人材を積極的に活用しようという考え方のことです。

1つ目の取り組みが「20-20活動」です。20-20活動は、「生産性の高い働き方に見直し、長時間労働をなくす」「多様な経験や自己研鑽のための時間を作る」ことを目的としています。最初の20は「月の残業時間は20時間以下」を意味しています。月の営業日が約20日間前後であることを考えると、残業時間は毎日1時間までが目標となります。2番目の20は「年間の有休休暇取得日は20日間以上」を意味しています。年休の消化率を上げることを目標と

しています。1年は12カ月ですので毎月1日程度年休を取得、それに加えて夏休みや冬休みの長期休暇の時に有休を何日間かつなげて取得すると、目標を達成することができます。本活動が開始されて、約1年ちょっと経過しましたが、少しずつ長時間残業が減ったり、年休を取りやすい雰囲気が社内に定着し始めていると思います。

また、2つ目の取り組みが「在宅勤務」です。本取り組みは「育児・介護といった家庭事情を持つ社員が在宅勤務をすることにより、ワークライフバランスの向上とともに、業務の生産性の向上」を目的としています。私自身も在宅勤務を利用しています。子供の病気で数日間出社できない場合や、午後から小学校の参観日がある場合に午前中は在宅勤務、午後は半日年休行使等で在宅勤務を利用しています。

弊社の働き方改革の取り組みも始まったばかりですが、徐々に社内の意識改革が始まっていると思います。今後は育児や介護等、対象者を限定せず、全ての人が働きやすい仕組みが広がるようになっていくといいなと思います。

繰り返しになりますが、私あまり子供が好きな方ではなかったのですが、赤ちゃんかわいいですよ。子供が産まれてから、小さい子供を見るとすごくかわいいなあとと思います。とにかく大変なことが多いですが、子供産んで、そして仕事を続けてきてよかったと思います。



OB・OG と語る会に参加して

畠沢翔太（平成 26 年工学府博士課程前期修了、コニカミノルタ(株) 機能材料事業本部）

この度は恩師である關先生のご依頼を受け、OB・OG と語る会の講師を務めさせていただきました。社会人経験の短い私からお話しできることがあるのか？と少し悩みましたが、短いからこそ学生の皆さんと近い目線でお話しできることもあるかもしれないと思い、引き受けさせていただきました。

講義の内容としましては、主に①企業で研究するという（労働としての研究）についてと、②企業と大学における研究方法の違い、についてお話しさせていただきました。このようなテーマを選択した理由は、私が就職活動中や就職して間もない頃に“働く”ということと研究のつながりについて悩んだ経験があったためと、今後大学で研究を進めていく皆さんに、大学での研究と企業での研究の違いについて触れていただくことで、今後の進路の参考になればという思いから以上二つのテーマについて話させていただきました。

正直言って、講演を聞いて下さった皆さん全員に満足いただけるような講演はできていないと思います。ですが、講演後のアンケートを拝見させていただくと、まさにこういったテーマについて聞いたかったという方が一名いらっしゃったので、それだけでもこの講演を引き受けた価値があったかなと感じました。また、多くの方が私の伝えなかったことを、自分の中に落とし込んで感想を書いてくださっており、参考になったことがあったのかもしれないなど、少し安心したとともに、非常に優秀な方がそろっており、さすが国大の化学系学生と尊敬の念を抱いた次第です。

懇親会ではお酒が出たこともあり（最近はやや厳しい



ようですが…) 学生の皆さんは非常に盛り上がりしており、若さとエネルギーを感じました。また、思った以上に私と妻のことに関する質問を多くいただき、私は恵まれているのだなとひそかな優越感に浸ったとともに、学生の方々には私からのアドバイスである“希望とは計画を立てることである”を思い出していただいて、ぜひ計画的に行動いただき、幸せな家庭を築いていただければと思います。（ジョークですよ）

また、今回の講演の資料作製にあたり、自分の過去の経験から現在の立ち位置までを客観的に見直す非常にいい機会となりました。実はアウトプットする側の方が学ぶことが多いのではないかと感じたほどです。この紙面を読んでいる熱心なOB・OGの方や、学生の方には、アウトプットの機会があれば（ex.OB・OG と語る会）快く引き受けてご講演いただくことを、お勧めいたします。

末筆とはなりますが、このような貴重な機会を与えてくださった關先生をはじめ国大化学会関係者の方々、最後まで話を聞いてくださった学生の皆様に深く御礼申し上げます。

「OB/OG と語る会」アンケート結果

実際にどのような仕事をしているのかを聞いて、自分にできるのか不安になった。働くことは大変であるとともにやりがいがあると感じた。

自分には企業で働くイメージが全然持てていなかったが、本日の講演を聞いて、自分がどのような感じで企業を通して社会に貢献するのか、少しイメージを持つことができた。

大学と会社の研究の違いを理解できてよかった。また、育児の大変さが分かった。自分の人生のスパンを考えて予定を立て、将来設計を考えるべきだということを感じた。

企業での研究の様子について具体的に知ることが出来て良かった。初めて聞くお話が多かったです。また、働くということは大変なことだと思った。

将来何がしたいのか、この段階で具体的に考えておくことは大事。そのために情報集めや調査、計画を立てることも始めておくべきだと思った。

自分の務めようとする企業がどのような制度を導入しているのかを、事前に分かっておくことが必要だと思った。

仕事と育児の両立には周りの制度を上手に使っていかねばならないと感じた。また広い視野をもって仕事をするのが大切だと感じた。

仕事をすることの忙しさや苦勞を改めて知るとともに、仕事に対して興味を持った。

会社が行っている研究といったことだけでなく、あまり考えたことのなかった会社の制度(育休などの)についても話があり良かった。

在宅勤務のような働き方の多様化が進んでい

ることや、育児支援等の制度が充実していることが参考になった。

社会に出たら今学んでいることが身につけている前提で、それらを用いて発展させていかなければならないのだと分かり、頑張ろうと思いました。

会社と大学で研究することの違いについて知り、自分がこれから何をしたいのかについて改めて考えるきっかけになりました。また女性として働くことについて、いろいろな制度があることも知り考えが広がりました。

実際に企業で働くことについて考えることができ、将来についても考えることになりました。

大学院進学を考えていたので、就職については遠いものだと思っていたのですが、これからのこととして考えていかなければと思った。自分でやりたいことだけでなく培ってきたことを活かし社会に貢献することが大切だと感じた。

企業に行くとも研究が続けられないことになりがっかりしました。また子育てと会社の両立がとても大変そうに感じました。

自分が働いているイメージが持てないので、身近には思えなかった。ただ思っているよりも働くということは、今やっていることとそう遠くないと感じた。

在学中、研究や勉強ばかりといったタイプでなくても、社会に出て一人前になれると思った。会社の制度についてはもっと知りたいと思った。

会社での研究は面白そうだと思いました。また、育児をするママのために様々なシステムがあることを知りました。

進路を考えるに当たり、大学と企業の研究の違いを知りたいと思っていたところだったので、とても参考になりました。

卒業後社会に出たときのイメージがわからなかったが、お話しが大変わかり易かったので、自分の将来についてより興味をもって考えることが出来ました。研究職の具体的な仕事の内容についてよく知らなかったが、畠沢さんのお話しから、研究の内容、方法、マネジメント等多方面からの情報を知ることができ良かったです。

3年目で実験・研究から離れてマネジメントに移るのは意外と早いなと思いました。また、会社の制度が意外と個人に対応できるようになっているのだと感じました。

OB・OGさんが実体験をもとに会社の概要などを話していただけたので、将来の参考になることが多かったです。

実社会で生きていく上で、仕事や家庭をどう両立させるのか、どのように社会に貢献するのかを学べた。

自分が今後社会に出て働くというビジョンが少し見え、不安と期待を持ちました。また、大学の時にしっかりと勉強していくことの大切さや、育児しながら働くことの大変さについて知りました。

大学や大学院での研究について知ることができ、大学と企業の違いについても知ることができました。また就職後だけでなく、今から計画を立てることや物事を深く考えることの重要性が分かりました。

これからは受け身でいるだけはいけないなということと、将来について考えようと強く思いました。またお二人が幸せそうだなと感じました。

企業と大学の研究のスタイルが大きく異なると知って驚いた。また、働くということは、自分のやりたいことだけやるのではなく、それなりにたいへんなものだということを知った。

お二人ともしっかりと企業に就職し、家族を養っていて、素直に尊敬する部分と、自分も将来このようになれるのかといった不安も感じた。

同じ化学分野を学んだ人でもいろいろな進路を選べることが分かりました。また、社会人になって終わりではなく育児などの部分も考えなければいけないことに気が付きました。

様々な環境の変化に対応できるよう、きちんと考え行動することが大切と感じた。